

# 神奈川県立 精神医療センターだより

芹香病院／せりがや病院

平成20年  
5  
MAY  
第8号

## 精神医療センター所長就任に当たって

岩成 秀夫

このたび精神医療センター所長を拝命いたしました。長く芹香病院で勤務してまいりましたが、これからはせりがや病院も含めて考えていかなければならない立場となりました。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

精神医療センターの喫緊の課題は、老朽化した芹香病院の建て替えと、それを前提とした両病院の実質的統合であります。その問題はここ数年、精神医療センター総合整備検討会議等で検討してまいりました。現在、整備すべき医療機能と新しい組織について一定の結論が出ています。平成20年度はその結論を元に、施設整備の検討を行います。新しい精神医療センターをどこに作るか、建物の設備・構造をどのようにするかなどを具体的に策定し、医療機能・組織・施設整備をあわせて、今年度中に精神医療センター総合整備構想をまとめることとなります。

また、わが国の医療界と同様、精神科医療も変革の大きなうねりの只中にあります。精神医療センター総合整備計画の中に、①精神科医療の方向性を見極める、②県立病院として政策医療に取り組む、③精神科中核病院として機能を充実させる、④精神科医療のノーマライゼーションを進める、という基本方針が提示してあります。今後、平成22年度に向け一般独立行政法人への移行の問題が迫ってきますが、県立精神医療センターという立場を見失うことなく、県民にとって頼りになる医療機関であり続けたいと思っております。

## 芹香病院院長就任に当たって

岩間 久行

花咲き花散る宵ははや去り、めでる間もなく過ぎ去りました。かように世の動きは速く、ついていくことすらやっという感が否めません。

医療界は再編の動きというより、最近では崩壊に向かっているかのごとき動向すらあり、日々暗い気持ちにさせられます。特に自治体病院は生き残りをかけ、その機能と役割意識を先鋭にした経営を迫られています。しかし、今朝の方針が夕方にはどうなっているか、わからない時代となってきました。疑心暗鬼にかられ、不安のみが益々重くのしかかります。

さて、このような状況ですからいろいろと心配しても詮無いことです。このような時には基本に戻ることが大切だと私は考えます。基本とは、先ず第1に医療を必要としている人々に惜しむことなく医療を提供することでしょう。私達は専門技術職ですが、持てる技術の出し惜しみは中島敦の『名人』になってしまいます。基本の第2は機能をいかに発揮することだと思います。機能が活かされているかどうかは、全体の流れの中で判断されるものと考えます。病院には様々な部署がありますが、夫々の現場の機能がうまく連携することで初めて活かされているものと捉えていただきたい。くれぐれも現場モノロー主義に陥らないように注意していただきたいと思ひます。

わけのわからん時代です。わからんものをわかつてからストレスになります。これは人間心理ですから仕方がないとしても、そこに拘泥すると不健康になります。捕われることなく基本に立ち返り、日々やれることを着実にやっていく、そうして次の時代の到来を待つことができるよう備えていきたいと思ひます。共に着実な一歩を進めていきましょう。

# 芹香病院副院長就任に当たって

## 矢花 辰夫

このたび芹香病院に10数年ぶりの勤務となりました。この3月までは、隣の精神保健福祉センター勤務で毎日左手に芹香病院を見ながら坂を上っていました。精神保健福祉センターでは直接患者様に接する機会は少なかったのですが、芹香病院では当然ながら患者様の治療を中心とした医療が中心となり、まだとまどいながらやっている状態です。

さて、日本の精神科医療も入院中心の医療から地域での生活を中心とした医療へと転換されつつあり、入院初期から地域での生活を見据えてのリハビリが始まると言われています。また、全体的に入院治療期間は短くなっており、以前のようなゆっくりとした時間の流れは少なくなっています。そして、医療の内容は薬物療法の変化をはじめとして、最近では多職種でのかかわりが強調されています。病院での医療でも医師、看護師だけでなくPSW、心理士、OT、PT、薬剤師、栄養士、事務職などすべてのスタッフが協力して関わる必要があります。その中心には患者様がいて、患者様が地域でどのような生活をしたいと考えているかを丁寧に話し合っていくことが重要です。そこには様々な職種の人たちが、その専門の知識や知恵をだしあい自宅やご家族などの地域の資源につなげていく根気よさが必要です。

私には至らない点が多々あると思いますが、このような多職種の力を合わせた医療を皆様のご協力をいただきながらやっていきたいと思っています。

## ■新任職員の紹介

本年4月と5月に、精神医療センターに来られた医療スタッフを紹介します。いずれの者もセンターの基本理念を踏まえ、皆様に信頼される心あたたかい医療を提供するよう努力しますので、よろしくお願いいたします。

### 芹 香 病 院



矢花副院長



磯島医師



近藤医師



小林医師



松本医師



山口看護科長

職名	氏名
副院長	矢花辰夫
医長	磯島大輔
医師	近藤大三
医師	小林伸茂

職名	氏名
医師	松本香織
精神保健福祉士	曾根佳世子
作業療法士	花田彰子
病棟看護科長	山口時雄

### せりがや病院



小西医師



小林医師



林看護局長

職名	氏名
医師	小西潤
医師	小林勇太
作業療法士	郡司孝行
専門福祉司	大曾根しのぶ
看護局長	林洋子

## ストレスケア病棟 オープン

芹香病院ではうつ病を中心とするストレスケア医療を充実させるため、A2病棟を改修して、平成20年4月より「ストレスケア病棟」としてオープンしました。ストレスケア病棟は37床（隔離室1床、個室12床、4人室24床）の開放病棟であり、アメニティにも配慮したゆったり静養できる病棟で、様々な治療法や環境調整を実施しながら、社会復帰に向けたサポートを行うことにしています。

このストレスケア病棟は、医師・看護師だけでなく、臨床心理士・精神保健福祉士・作業療法士などを配置して、チーム医療を実践するとともに、薬物療法、精神療法、環境調整などが実施できる体制を整えています（必要があれば無けいれん性通電療法も実施可能）。

ストレスケア病棟（A2病棟）への入院を考えている方は、平日9時～17時に TEL 045-822-0241（内線311）に「ストレスケア病棟の入院相談です」とご連絡いただければ、担当者につながります。なお、電話で「名前・年齢・性別・現在お悩みの症状・受診歴（受診歴のある場合には診断について）・治療歴・入院の希望」についてお聞きします。電話でお話をうかがった後に、ストレスケア専門外来の予約をとらせていただきます（完全予約制）。

このように様々なタイプのうつ病患者さんの治療が可能な体制をとっていますので、広く皆様に利用していただくことを望んでいます。



広々とした個室です。



テレビや簡単な机が使用できます。



4床室です。  
カーテンで仕切ればご自分の空間を大切にしながら療養することができます。



広々として開放的なホールがあります。談話をしたり食事もできます。



快適なソファーに腰掛けて、ご家族とリラックスした時間を過ごすこともできます。



ホール内には、畳でくつろげる空間もあります。



広々として木の香りがする脱衣所です。



広々としたユニットバスが2台設置されていて、1人でゆっくりと入浴することができます。



洗面所です。

## SST (social skills training) 生活技能訓練運営会議より

自立支援者懇談会 (SST 院外普及の会) が、平成20年3月7日に開催されました。これは院外作業委員会を源流に、社会復帰懇談会と変更後呼び名を改めたもので、9年目となりました。

支援者としてのご家族、医療、福祉、司法関係者が94名集まりました。今回は、島田医師より産業医の立場から「ストレスと怒り」について紹介した後、ルーテル大学大学院名誉教授の前田ケイ先生に「地域での生活を支援する SST」と題し講演していただきました。引き出しの多い先生のお話からは、SST の奥深さと可能性を示され、日本での SST の導入当初は行動変容に力点が置かれていましたが、現在は認知も行動も変容させる治療法であることが、再確認できました。

また、当事者から受ける言語的・身体的な暴力への対処法や、当事者が支援者と共に希望にあった役立つ技能を自らが増やしていくこと (エンパワーメント)、当事者である PSW (ここではピアサポートワーカー) が地域貢献していること等の紹介がありました。実技的には、人間彫刻 (写真中央)、ひとり SST 等が教示されました。

そして、ご家族からは、当事者が治療を受けながら大学を卒業し就職し今春結婚するという、まさに回復途上者、リカバreshi つつある人 (Person-In-Recovery) といえる事例を話され、SST を行う我々もエンパワーメントされました。



前田ケイ先生 (左)

## 栄養管理計画書 芹香病院・せりがや病院

「栄養管理計画書」は、担当医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など多くの職種の職員が、患者様お一人お一人の栄養状態からケアする役割を担っています。

入院当初、看護師が「食事に介助が必要ですか？ ここ一ヶ月の間に体重が増えたり減ったりしていますか？」等々、健康状態や栄養状態を伺っています。これを基に、入院患者皆様の「栄養管理計画書」を作成しております。これは平成18年4月から開始し、平成20年3月までの総計は、芹香病院とせりがや病院の両病院を合わせて2,000件を超えています。

作成した「栄養管理計画書」に基づき、「肥満」「低栄養」「咀嚼・嚥下に注意」など問題点の有無をチェックします。病棟ごとに月1回ミーティングを行い、留意すべき患者様については頻回に病棟訪問し、良好な治療に役立つよう改善方策を検討しています。

例えば、「食欲がなく、おかずは手をつけない。お粥なら食べる」といった低栄養の患者様には、患者様の了解をいただいた上で、お粥にプロテインの粉末 (無味無臭) を添加する工夫をして、少しでも栄養状態の改善を図ったり、「低体重だが食事摂取量に限界がある」患者様には、3食の食事のほかに補食を導入し、栄養補助食品を提供するなどしています。その結果、低栄養が改善され、退院につながった患者様の例もあります。

入院期間が長い精神科病院だからこそ、こうした形で多くの職種の職員が、患者様お一人お一人を注意深く見守ることができることを嬉しく思っています。

## 職員募集 (非常勤)

当センターでは、看護師さんを募集しています。ご希望の方は、センター総務課までお問い合わせ下さい。

### 【看護師】

勤務先：「芹香病院」 業務内容：病棟勤務 (夜勤あり) 待遇：県規定により経験年数に応じ処遇  
《問合せ先》 神奈川県立精神医療センター総務局総務課